

ボランテアが巡回し、具合の悪そうな人を見つけたと、早めに医務室に誘導し運んでいた。

五輪が行われる7月24日から8月9日の東京都心の最高気温は今年、17日間と

## 観客

### 競技

オープンウォーター  
スイミング

パラトライ  
アスロン

サーフィン

重量挙げ

馬術

ゴルフ

テスト大会で明らかになった主な課題

①ホッケーのテスト  
出すミス(東京都品川区で)＝  
②ゴルフのテスト大  
難した観客ら(14日



ビ中継用のカメラが、ト。来年3～5月の直前期に指揮系統の最終確認もして本番に備える。

実施方法は国際競技連盟(IF)などが主催する大規模

## 失敗

らうため、組織委員会は一丸となつてやっている。本番がどうだったかで私たちの仕事ぶりを判断してほしい」としている。

# 論点

## 「食と農」の人材で地方創生



かなまる 金丸 弘美氏

食環境ジャーナリスト。総務省・地域力創造アドバイザー、内閣府・地域活性化伝道師も務める。「田舎力」など著書多数。66歳。

食と農業の現場で大きな変革が起こっている。全国各地を回り、農業の力を地域活性化に結びつけた事例を数多く見てきた。

農産物を農協経由で市場に出荷するという形態は、激減した。農協自体の数が大きく減り、農家が株式会社などの法人を設立する動きが進んだ。農業生産を行うだけでなく、直売所やレストラン、体験施設などを

備えて、消費者に直接販売するような組織が台頭している。

農業生産中心であつても、デパートやスーパー、生協、飲食店などに営業をかけた契約、取引をする形に移行している。相手が欲

しい農産物を作り、経営を安定させるというメリットがある。こうした動きにより、農家が価格決定権を持つことになり、若い人の雇用や新規就農にもつながる。

特に活況を呈しているの

は農産物の直売所で、多角的な経営で成功する例が目立つ。石川県の米農家が集まって設立した株式会社「六星」は、直売所、レストランのほか、和菓子店や総菜店も営む。

三重県伊賀市の「伊賀の里モクモク手づくりファーム」は、養豚業から発展した。直売所や飲食施設に加えて体験農場や宿泊施設などを展開し、山間地での集客は若者の雇用を生んだ。長崎県大村市の「おおむ

ら夢ファームシュシュ」もレストラン、農業体験などのほか結婚式、法事も行い、地域を活性化させた。農家民泊と連携し、海外からの客も来るようになった。

農家やゲストハウスに滞在して食を味わい、地域を周遊し様々な体験も楽しむという新しい観光の形が広がっているのだ。

名古屋市中心部で開催されている「オーガニックファーマーズ朝市村」も注目される。無農薬・無化学肥料の野菜を中心とした市場で、実家が農家ではない新規就農者で構成している。農業の講座や体験、研修な

ども実施する。新規就農を後押しし、消費者との懸け橋になる役割も担っている。

この名古屋市の例も含めて、各地の先進的な取り組みの中心に女性リーダーがいることが多い。食の魅力や幅広くアピールする上で、消費者の目線が大きな力を発揮している。

料理やデザートづくりの提案はもちろん、体験教室やイベントでも新たなアイデアが生まれ、生産するにとどまっていた農業の在り方を変革させた。女性の才能を引き出し、経営に生かすことが成否を分けるとい

つても過言ではない。農業を教える高校、大学なども、農業技術中心の学習だけでは追いつかないだろう。先進的な農業法人でのインターンシップ制度や、事業計画作成などを学ぶことも大切だ。

行政も、農業、商業、観光の枠を超えて、総合的な農業経営ができる人材を育成するために支援してもらいたい。

良質で安全な農産物を消費者に魅力ある形で届けていくことが、地域活性化に結びつく。女性を含めた「人づくり」が地方創生の鍵ともいえる。